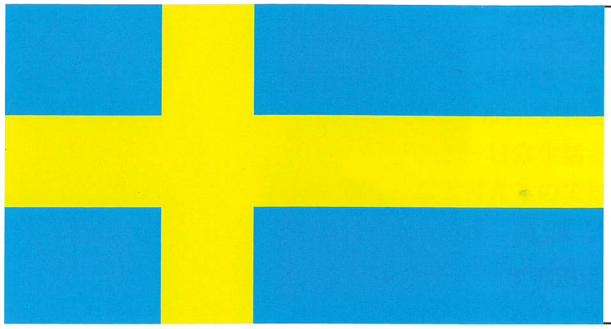
2023年７月10日



第　159　号

Björk

ービョルク（白樺）ー

６月18日（日）に開催された第38回夏至祭のようす。昨年に続きスウェーデンヒルズ会場、道の駅とうべつの二会場での開催となりましたが、今回は両会場でマイストングの立ち上げをおこないました（関連記事13ページ）

インタビュー「イケア・ジャパン株式会社　代表取締役社長 兼 Chief Sustainability Officer　ペトラ・ファーレ」 …… 2

令和５年度定時評議員会・第１回理事会報告 …… 7

寄稿「フロアーボールがもっと有名になりますように」 …… フリドルフ　快　8

連載寄稿「ソフィア・ヤンベリの『スウェーデン便り』④」 …… ソフィア・ヤンベリ　14

一般財団法人スウェーデン交流センター（理事長　村井 秀壽）

〒061-3777　北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ２３２９－２５

http://www.swedishcenter.or.jp/　　e-mail：info@swedishcenter.or.jp

ＴＥＬ ０１３３-２６-２３６０　ＦＡＸ ０１３３-２６-２９９２

インタビュー

イケア・ジャパン株式会社　代表取締役社長 兼 Chief Sustainabality Officer

ペトラ・ファーレ

Intervju med Ms.Petra Färe, CEO & CSO of IKEA JAPAN K.K

スウェーデンと聞いて思いつくものの一つに、世界最大の家具量販店である「イケア」の名を挙げる人も少なくないのではないでしょうか？日本各地に店舗を構え、質の高い商品はもとより、斬新なサービスとワークライフバランスを大切にした働き方を日本に紹介しているこの企業に興味をおもちの方は多いことと思います。

今回イケアが新しい店舗展開の形として都心に展開している「IKEA 原宿」に伺い、イケアの日本法人である「イケア・ジャパン株式会社」の代表取締役社長兼 Chief Sustainabality Officer であるペトラ・ファーレ氏に、そのイケア・ジャパンのこれまでのあゆみやその特徴的な取り組みについてお話を伺いました。

イケア・ジャパンのあゆみ

SCF 職員（以下－）今回はご多忙の中貴重なお時間を割いていただき、誠にありがとうございます。今やイケアの名は日本でもよく知られた存在となりましたが、まずは御社のこれまでのあゆみについてお聞かせいただけますか？

こちらこそ、どうぞよろしくお願いいたします。イケアが日本で店舗を展開したのは 2006 年、４月に千葉県の船橋市に第一号店「IKEA 船橋（現：IKEA Tokyo-Bay)」、６月に第二号店「IKEA 港北」をオープンさせたということが一般的には知られていますが、実際には日本への展開はそれよりもずっと早く、1974 年にさかのぼります。しかしその当時は日本人のライフスタイルやニーズに沿ったサービスや商品展開を十分にできたとは言えず、残念ながら一時的に日本の市場から撤退していました。その後、日本人のライフスタイルについての理解を深め、私たちがそのニーズに応えるサービスを十分に検討して、2006 年に再度進出して今に至ります。

－今やイケアの商品は多くの日本人を惹きつけていますが、そこに至るまでには長い歴史があったのですね。

そうですね。2006 年に再進出するまでに、日本の文化だけでなく、日本の家やインテリアや消費者の動向など、日本の市場について幅広く調査をし、理解を深めるように努めてきました。スウェーデンのやり方をそのまま日本に導入したとしても、日本人のニーズに沿うとは限らないということですね。

イケア・ジャパンの取り組み

－イケアは北欧のモダンなデザインの家具やスウェーデンの食品など、魅力的な商品を数多く取り揃えており、多くの日本人を魅了していますが、商品だけでなくサービス展開の仕方や物流の方法、コワーカーの働き方などでも注目を集めているとお聞きしました。御社の特徴的なお取り組みについて教えていただけますか？
（※イケアでは、社員のことを「従業員」ではなく、「共に働く人（co-worker)」を意味する「コワーカー」と呼びます）

日本では 2006 年に再進出して以来、神戸、大阪、埼玉、福岡、立川、愛知と、各地に出店しており、2011 年の東日本大震災の後には仙台でも展開しています。それらの店舗は、イケアが創業して以来 80 年の間親しまれている「ブルーボックス（青い箱)」と呼ばれる大型店舗という形態で運営してきました。

IKEA Tokyo-Bay 店舗外観。ブルーボックスと呼ばれるこのような大型店舗は各地に出店しています。

近年は時代の変化とともに世界各地で消費者の動向も変化してきており、インターネットを通したオンラインでの買い物需要の増加と、都市部への人口集中の傾向が見られるようになったことから、これまでのように都市郊外にブルーボックスを展開するだけでなく、新たな店舗形態での展開に挑戦しています。それが今回お越しい

ただいたこの IKEA 原宿などの都心型店舗です。この都心型店舗のコンセプトはグローバル市場で展開していくための試金石となる試みでして、原宿の他に新宿と渋谷という、近距離に３店舗をオープンしましたが、それぞれに異なるターゲットを設定しており、従来の大型店舗とは違ったサービスを提供しています。そしてこの都心型店舗とともに、オンラインストアにも力を入れており、これによって九州や北海道の方まで、イケアの商品をお買い求めいただけるようになりました。

都心型店舗のひとつ、IKEA 渋谷。原宿、新宿と３つの都心型店舗があり、それぞれターゲットが異なります。

このように、私たちは創業以来 80 年続けてきた手法とともに、これからの時代のニーズに沿ったサービスを提供するべく、日々試行錯誤と実践に取り組んでいます。

－今回伺った IKEA 原宿のような都心型店舗やオンラインストアでの配送から受け取りまでのネットワークが整備されているのも興味深いですね。

それ以外にもポップアップストア（短期限定ストア）を各地で展開しています。これは小売業やレストランなどに見られる手法ですが、イケアでも店舗と商品の魅力を全国各地で伝えられる方法として取り入れています。また、イケアの配送ネットワークを拡大する一環として、各地に「商品受取りセンター」を設けています。これは提携する運送会社の協力のもと、お客さまが各エリア最寄りの商品受取りセンターに商品を取りに来ていただくことで配送費用を低く抑えられるというものです。

また、イケアの特徴に「セルフサービスエリア」というものがありますが、これは日本の飲食店でもよくみられる、自分でオーダーして受け取るセルフサービスのスタイルを基にイケアは使っています。70 年代に日本に進出した際は、このスタイルは現在のように一般的ではなく上手くいかなかった面も多かった一方で、後々のために多くのことを学ぶことができました。そして、2006 年に再び日本に戻った時には、多くの日本の方々に受け入れていただける結果となりました。

このように、私たちはいろいろな面で新しい手法を試し、取り入れていますが、それが日本の皆さんに受け入れられ、喜んでいただいていることを嬉しく思っています。

－確かに SCF のある北海道にも商品受取りセンターがあり、イケアの魅力的な商品が手に入りやすくなりました。よりイケアが身近になった感じがしますね。SCF でもフィーカやイベントの際にはスウェーデンのお菓子をお出しすることもあり、その際には IKEA Tokyo-Bay や、IKEA 港北、IKEA 立川の店舗に足を運ぶことが多いのですが、将来的にこういった食品も北海道で注文できれば良いですね。

イケアの働き方

－イケアはその魅力的なサービス以外にも、スタッフのワークライフバランスなど、その先進的な働き方が多くの注目を集めていますね。

私たちのビジネスの中心は人です。人々がより快適な家での暮らしを実現するためのアイデアを考えることが私たちの仕事です。そして、人が中心であるという考え方は、イケアで働くコワーカーにも同様のことが言えます。コワーカーというものは、私たちにとって最大の資産であり、何より大切にするべきもの、コワーカースタッフ一人ひとりが素晴らしい才能をもち、貢献できる、そう信じています。各々が率先してアイデアを出し合い、行動していってほしいと願っています。

また、イケアはイクオリティ（平等性）、ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（多様性の受け入れ）の考え方を発信しています。多様な人々を受け入れ、コワーカーとして雇うということは、多様なお客さまのニーズを理解することにもつながります。これは人間的かつビジネス的なアプローチですね。スウェーデン人の私にとっては当たり前のことなので説明するのが難しいのですが、人を大切にする心と戦略的に考える頭脳、どちらも欠かさないということです。コワーカーには大いに自分らしさを発揮し、エネルギッシュに仕事をし、活躍してほしいと願っています。職場でも本当の自分を大切にしてほしいのです。

イケアで誰もが大切にされ、各々の声に耳を傾けることができる素晴らしい職場でありたいと思っています。それと同時に、コワーカー一人ひとりが日々の暮らしを大事にし、ワークライフバランスを実現することは重要なことだと考えています。８時間しっかりと働くためには、休息が欠かせません。多くのスウェーデン人が農民だった頃も、きちんと休息をとらないと農作業もできなかったはずです。

－ワークライフバランスやサステナビリティ（持続可能性）は、近年日本でも重要視されていますが、まだまだこの考え方が十分に浸透しているとは言えない気がしています。イケアにはぜひこの働き方、考え方を日本に広めていってほしいですね。

そうですね。サステナビリティという点では、私たちは「People & Planet Positive（ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ）」というサステナビリティ戦略をもって取り組んでいます。この戦略において、人々はとても重要な役割を果たしています。サステナビリティとは自分自身のことだけでなく、社会や世界中の人々が関わってくるからです。しかしまずは、私たち自身から始めてみることにしました。日本の習慣を変えるのは簡単なことでは

ありませんよね？だからこそ私たちがまず率先してサステナビリティに向けた取り組みを始めるべきだと考えました。これを実現するためには、私たちが大切にする８つのバリュー（価値観）が欠かせませんが、そのうち１つに「手本となる行動でリードする」というバリューがあります。労働環境において、変化をもたらすためには手本が必要で、例えば私が１日に 15 時間働いたとしても、それはいい手本とはなり得ませんね。残業をすることや必要以上に居続けることを誰に対しても期待してはならないし、そうであってはならないことから、手本を示して社会に変化を促すことが大切であると考えています。そのための制度もイケアでは整えています。

イケアのホームページで公開されている、イケアのサステナビリティレポート。People & Planet Positive についてもこのレポートから知ることができます。

また、イクオリティ（平等性）という点では、ジェンダー平等の実現に向けてコワーカーの状況に応じたサポートをするために、これまでにさまざまなプロジェクトに取り組んできました。子育て中の両親をサポートする育児休暇はその一つです。父親のためのパタニティ休暇は、産前でも産後でも、必要なときに合計 15 日間の有給育児休暇が取ることができます。また、日本では一般的に子どもが３歳になるまで短時間勤務の権利がありますが、イケアでは小学校就学の始期まで短時間勤務が可能です。育児休業を取得しても、短時間勤務であっても、キャリア形成に影響が及ぶことのないように体系的にサポートを行っています。そして、ジェンダー平等の面で育児休暇と並んで大事なことは、性別の違いによって賃金の差が生じるようなことはあってはならないということですね。これは人権の最も大事な部分であり、同じ仕事内容ならば、そこに賃金の差などないことを私たちは示していかないといけないと考えています。

－これからの働き方で非常に重要な考え方ですね。性別による賃金の格差はいわずもがな、長時間労働の問題は永く日本でも問題となってきました。

そうですね、私たちの働き方が日本の企業のこれからのワークスタイルの参考になるのであれば、これほど光栄なことはありません。その意味では私たちが考えるコワーカーの在り方は、ワークライフバランスの取れた働き方という点で重要な役割を果たしています。

サスティナビリティ SDGs への取り組み

－前述のサステナビリティにも関わりますが、イケアの SDGs に対するお取り組みをお聞かせいただけますか？

SDGs に見られるサステナビリティの考え方は、イケアの成り立ちにも関わっており、私たちにとっては大事な部分でもあります。イケアの歴史はスウェーデン南部、Småland 地方の Älmhult という街から始まりますが、Småland 地方はお世辞にも肥沃な地とは言えず、農業を営むには難しい土地が広がっていました。

イケア創業者イングヴァル・カンプラードが事業を始めた際に使用していた小さな小屋。イケアの名が見えます。

そんな中で培われた少しの資源を大事にし、最大限生かすということ、そして協力して物事に取り組むという二つの考え方がイケアの精神に組み込まれています。ですので、SDGs という言葉が世に出てくるずっと前から、物、頭脳、時間といったリソースを無駄にしないことが常に大事なこととされていました。インテリアに欠かせない家具にしても、すべて木製にしてしまうと必要となる木材も多くなり、費用も高くなっていまいます。そのため、他の材料を組み合わせたり、リサイクル材を使ったりしながら資源を有効活用することで、費用も抑えることができます。そういった取り組みは私たちが行っている活動に広く組み込まれています。

今日、世界中で SDGs が声高に叫ばれるようになりましたが、私たちも同じ方向に向かってこれらの課題に取り組んでいます。イケアとしても、これまで私たちが行ってきた取り組みを再認識するとともに、多くの方とその価値観を共有できるようにしました。それが先ほども少し触れたサステナビリティ戦略『ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ』ですが、これはイケアのウェブサイトで誰でもご覧いただくことができます。私たちのこの考え方は秘密にするものではなく、また他者と競い争うものでもありません。地球上で共に生きるものとして、この考え方を一人でも多くの人と共有していきたいと思っています。

イケアのサステナビリティ・レポートについては、右の QR コードからご覧いただけます。

（スマートフォン、またはタブレットのカメラで QR コードを読み取ってください）

その戦略の中で挙げている、人々がビジネスを続けていくうえで考慮すべきテーマが３つあります。「気候変動の問題」、「持続不可能な消費」、そして「不平等」です。

これらへの取り組みは、一歩進んで二歩下がるような苦難を伴うものですが、だからこそ私たちは循環型で、環境にやさしい前向きなビジネスができるようにしていきたいと考えています。そのために私たちは、地球の限りある資源を大切に活用し、多くの人々が健康的でサステナブルな暮らしを実現できるようサポートをしていきます。実際には家庭では多くのものが消費されていますからね。また、現在社会のいろんな場面で見られる不平等を解決するためには、多くの知恵とアイデアが求められることでしょう。しかしこれはイケアだけの話ではなく、社会全体で、地球規模で取り組むべき課題なのです。

－非常に重要なお話ですね。確かに私が初めてスウェーデンを訪れた時…もう 15 年以上も前の話ですが…スウェーデンのストックホルムにあった店舗に行った際、確かに低価格であったこともはっきりと覚えているのですが、リサイクルの取り組みや環境負荷軽減の取り組みなどが書かれていたと覚えています。まだ当時は SDGs やサステナビリティと言った言葉を耳にするずっと前のことでしたが、世界に先駆けて創業当時からこのようなお取り組みをされていることには驚くばかりです。

まさにその通りです。だからこそ、私たちが原点に戻ることが非常に重要であると考えています。また、商品の素材だけでなく人材、能力を本当に大切にすることが常に重要であるということも、イケア創業以来の考え方ですね。ちなみにその当時はどこの店舗に行かれましたか？郊外の Kungens Kurva ですか？実は私はそこで働き始めたんですよ。

－そうなんですか？最初は地下鉄 T-bana で行って、その後何度か車でも行きましたが…そこで勤務されていたとは驚きです。

偶然とはあるものですね、私も驚いています。その店舗は、よくあるブルーボックスの店舗とは違って、アメリカ・ニューヨークにあるソロモン・R・グッゲンハイム美術館から着想を得てつくられているんですよ。私はそこで５年ほど働いていました。

ストックホルム郊外にある、IKEA Kungens Kurva。

今後の展望について

－イケア・ジャパンの今後の予定についてお聞かせください。

そうですね、2006 年に日本に再進出して以降、各地にイケア店舗を出店してきましたが、これまでにイケアのコンセプトを日本各地に広めるだけでなく、日本とスウェーデンとの共通性や日本の消費者の動向や文化、価値観の変化など、多くのことを学んできました。それらを基に、イケアのコンセプトを発展させていきたいと思っています。そして店舗の展開では都心型店舗の今後にも注目しつつ、各地の配送ネットワークを充実させていきたいと考えています。今後の課題は、どのようにしたらより多くの方々にイケアに関心をもっていただけるか、ということです。商品受取りセンターやポップアップストアを各地で展開しながら、より多くの人にイケアを身近に感じていただきたいと思っています。特に商品受取りセンターがあることで、イケアの商品を購入する際に負担となる配送費用も抑えられますからね。

そして 2024 年には群馬県の前橋に新たな店舗がオープンします。これは従来の大型店舗でして、これも大きな取り組みの一つですね。日本各地で展開している大型店舗を通じて、各地のパートナーとの協力関係を維持し、その関係を強めていくと共に、各地の人々の家での暮らしをよりよく、持続可能なものとしていけるようにできたらと思っています。

－今札幌にある商品受取りセンターの商品は仙台から送られてくると伺いました。今 JR 各社では、新幹線を利用した「貨客混載」の試みがおこなわれていますが、2030 年代に新幹線が札幌駅まで延伸すれば、そういった手段でイケアの商品を低いコストで、短時間に送るということもあり得るのかも知れませんね。また、札幌の中心地区は再開発がおこなわれていて、大きな商業ビルが沢山建設されています。そこでのポップアップストアや、都心型店舗での展開もあれば、北海道民としては嬉しい限りですね。

“頑張って”と“もったいない”

－それではちょっと趣きが変わるのですが…日本文化や日本についての印象をお聞かせいただけますか？

日本文化については、私だけでなく多くのスウェーデン人が日本文化を愛しています。もちろん日本食はスウェーデン人も日本人も大好きなものの一つではありますが、日本文化を愛する理由はそれだけではないと誰もが言うでしょう。日本人はとても礼儀正しく、きちんとしています。そんな中で私は日本の「頑張って」と言い合う文化が好きです。共に力を合わせて乗り越えていきましょうという意味では、全体で仕事に取り組む、調和の文化ですね。実際にイケアが大切にしている８つのイケアバリューのうちの１つに、「Tillsammans（スウェーデン語で「連帯感」の意味）」というものがあります。まさに日本の文化に合致するものですね。

そして、過度に豪華に、複雑にするのではなく、シンプルにするということ。お金を無駄にしない、材料や資

源を無駄にしない、シンプルさとコストを意識した「もったいない」の精神です。完璧であろうとするといろいろなものを取り付けたり、加えたりしたくなりますが、よしとする基準があることでそれも抑えられます。

イケア創業者、イングヴァル・カンプラード

日本ではあるものを微調整したり、修正を施したりすることでよくしていこうとする「改善」という考え方もありますよね。その姿勢とイケアの使命である「より快適な毎日を、より多くの方々に」というビジョンは相通じるものがあると思っており、この言葉があるからこそ、日本の文化に親しみを感じるように思います。また、このよりよくしていこうとする意識は「ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ」にも通じています。それと同時に、地球環境を意識し、変化を促そうとするのであれば、各国政府やメディアにも果たすべき使命があると私は思います。

ものごとをよりよくすると言う意味では、日本では海外の文化を取り入れてよりよいものに発展させています。クリスマスやハロウィーンは恒例イベントです。結婚式の形式も、神社や教会などさまざまで、それらはどれもとても素敵であると感じます。また、新型コロナウイルスのパンデミックの際、マスク着用が義務化される国もある中、日本ではそれが推奨であったにもかかわらず、多くの人々が責任をもってマスクを着用し、行動していました。このように、日本の人々は受け入れ、責任を持って行動し、さらにより良くすることに長けていると思います。これが日本らしさなのだと思うとともに、スウェーデン人はこのような点から日本に親しみを覚えるのだと感じています。また、日本の社会や文化にはイケアの考え方に相通じるものがあると思っています。

－そうですね、私の友人のスウェーデン人も、日本とスウェーデンには相通じるものがあるいう者が少なからずいますね。

多くのスウェーデン人が日本の礼儀正しさ、気遣い、おもてなしの心に好感をもっていて、自分たちもそうありたいと思っていると感じますね。

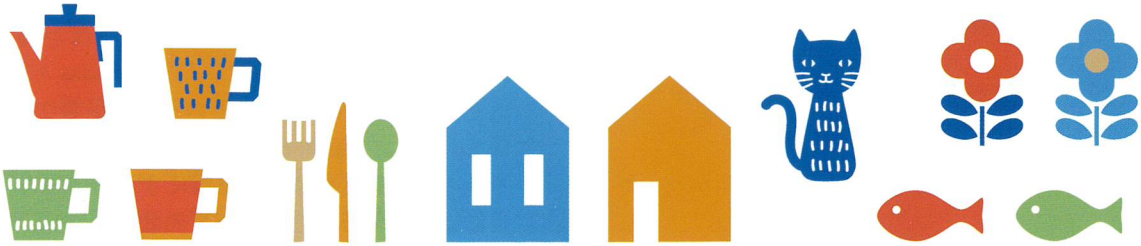
日本のみなさんに

－最後に、読者へのメッセージをお願いします。

日本とスウェーデンの間に長い時間をかけて育まれてきた友情があります。スウェーデンと日本との協力関係が2018年に150年を迎えましたが、今年イケアは創業80周年を迎えます。これらは重要な節目ではありますが、より重要なことは、これから先の未来をどうしていくかをみんなで考えていくことです。ぜひ、一緒に未来を組み立てていきましょう。特に若い世代の方々には、自分らしくあることを大切に、そして挑むべきことから目を背けずに、共に未来に向かっていってほしいと思います。家具の組み立ても1人より誰かと一緒のほうが簡単なのと同じように、協力し合えばよりよい未来を組み立てることができます。スウェーデンと日本のお互いによいものを取り入れながら、前に向かって進んでいきましょう。そうすれば、私たちは魔法のように素晴らしいことが成し得るはずです。そして、手を取り合ってイクオリティ（平等性）、ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（多様性の受け入れ）の目標を達成していきましょう。

－最後に素敵なメッセージをいただき、ありがとうございました！

インタビュー取材の際訪問したIKEA原宿の店舗前にて。



一般財団法人スウェーデン交流センター

令和４年度事業報告／令和５年度事業計画

令和４年度事業報告

令和４年度上半期の理事会・評議員会は、新型コロナ感染症に対する感染対策などにより、書面による決議を行い、第２回理事会については、感染症対策を行い対面での開催により、報告事項の報告を行った。

【Ⅰ．評議員会・理事会の開催状況】

① 評議員会

１．定時評議員会（書面決議）
日時：令和４年５月28日（土）
内容：令和３年度事業報告、令和４年度事業計画および収支決算承認、顧問委嘱について

② 理事会

１．第１回理事会（書面決議）
日時：令和４年５月13日（金）
内容：令和３年度事業報告、令和４年度事業計画
令和４年度収支予算、顧問委嘱について
決議事項：令和３年度収支決算承認

２．第２回理事会
日時：令和４年11月25日（金）
内容：上半期事業報告および上半期収支報告

【Ⅱ．事業状況】

１．交流事業

令和４年度の事業計画に基づき、各種展示･催しを企画・実施した。一般への開館にあたっては、北海道が提唱する「新北海道スタイル」に基づく新型コロナウイルス感染症の拡大防止策をとり、職員のマスク着用や体調管理の徹底、手指消毒や館内の換気等に加え、館内物品の定期的な消毒を行うとともに来館者への手指消毒液使用とマスク着用のお願いした。

開催事業（主なものを抜粋）

１）SCF ダーラヘストコレクション展（木工芸）
２）第37回夏至祭（令和４年６月19日（日）開催）
３）オンライン企画「SCF Hemkonsert」（夏至祭協賛）

２．広報事業

１）広報誌「ビョルク」の発行（年４回　各1,500部）
２）スウェーデン交流センターのホームページ・フェイスブックの随時更新
３）マスメディア・取材対応
４）資料の整備

３．工房事業

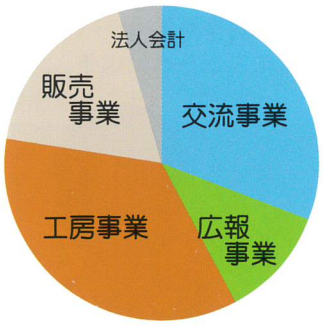
１）ガラス作品展
２）受注作品、贈答品、記念品等制作

４．販売事業

１）ガラス工房、木工房の作品の販売
２）輸入雑貨の販売

【令和４年度の収支決算】

総収入は51,990千円、総支出は70,366千円。支出のうち各種事業は67,424千円、管理費は2,941千円となっており、経常増減額は-18,376千円となりました。事業費明細は下記グラフおよび表をご参照ください。



令和４年度事業費明細

交流事業	21,770千円
広報事業	8,002千円
工房事業	24,827千円
販売事業	12,823千円
法人会計	2,941千円

令和５年度事業計画

Ⅰ．基本方針

令和５年度の事業計画は、定款に基づき、我が国とスウェーデンとの経済的・文化的交流を積極的に推進し、両国の友好親善を促進することを目的に計画します。

事業につきましては、従来通り次の４つの事業を柱に計画を実施します

Ⅱ．事業内容

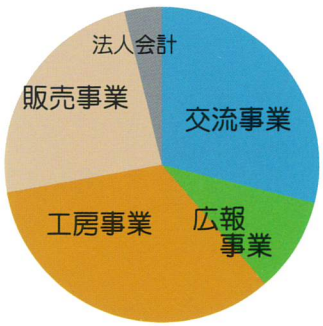
交流事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流等を目的とする派遣及び招聘並びに講演会、セミナー、講習会、展示会等の開催事業。

広報事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流等に関する情報の公開及び図書そ他刊行物の発行と、インターネットでの情報発信の事業。

工房事業：スウェーデンのハンドクラフト技術の普及、日瑞作家同士の交流を目的としたガラス工芸工房及び木材工芸工房の運営。

販売事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流の発展のための、工芸品、民芸品およびスウェーデンデザイン雑貨等の輸入販売ならびに工房の作品販売。

【令和５年度の収支予算計画】



令和５年度事業費明細

交流事業	24,594千円
広報事業	8,053千円
工房事業	28,331千円
販売事業	20,263千円
法人会計	3,150千円

「フロアーボール」というスポーツをご存知ですか？スウェーデン語で“Innebandy（インネバンディ）”と言われるこのスポーツは、北欧が発祥の“Bandy（バンディ）”というスポーツが元になっており、日本でも馴染みのあるアイスホッケーもこの Bandy が元になっていると言われています。

今回はフロアーボールに取り組んでいる、スウェーデン在住のフリドルフ快さんに、フロアーボールの魅力と日々の活動についてご寄稿いただきました。

寄稿

フロアーボールがもっと有名になりますように

フリドルフ　快

僕の名前はフリドルフ快、スウェーデンのヨーテボリという街の近くに住んでいる 14 歳です。お父さんはスウェーデン人、お母さんは日本人です。僕は８歳からフロアーボールというスポーツをやっています。

フロアーボールはスウェーデンで生まれたスポーツで、男の子にも女の子にも人気があります。ルールは至ってシンプルで、スティックを使ってボールを相手チームのゴールにたくさん入れた方が勝ちになります。ただし、無理に押したり引っ張ったりするのはペナルティになって、スティックは膝より上で打つのもファウルになります。

８歳のころの僕です。

僕はクラブチームに入っていて、ほとんど同じ年齢の子と一緒に練習や試合をおこなっています。16 歳からは大人のチームに参加できるようになり、大人のチームでは 30 歳以上の人も同じチーム内にいることもあるので、上手だと年齢に関係なく一緒にプレイができます。

スウェーデン U19 チーム。
この前のポーランド国際試合で優勝しました

大人と一緒にプレイをすると、大人は（体格差もあって）倒れなかったり力が強かったりすることもあって大変ですが、パスを通して、ドリブルで抜かしていってゴールする事はできるので、それが出来た時はとても面白いです。単純に力の差や体格の差で勝敗が決まるわけではない、ということも魅力のひとつですね。

スウェーデンフロアーボール協会の HP から

チームはプレイヤー５人以上、キーパー１人で作ります。プレイヤーはフォワード、センター、バックのポジションに分かれて、途中交代しながらプレイをしていきます。わずか５秒でもあったら点数が入ることもあるので、交

代するタイミングやスピードも勝負の分かれ目になります。

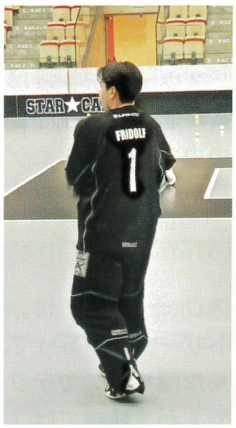
スウェーデンフロアーボール協会のビジョンは、『Svensk Innebandys vision är att bli Folksporten.（“みんなができるスポーツを目指す”という意味）』というもので、誰でも何歳になってもできるという事を目標にしています。公式試合ではプレイヤー５対５で試合をするけれど、練習試合や小さな子どもがプレイする時は３対３になる時もありますし、時には４対４になる時もありますが、人数が同じだったらプレイするのに問題はありません。また、男女が一緒にプレイする事もあります。プレイをしなくても、コーチだったり、審判だったり、みんながフロアーボールに関わって楽しめる事を目標としてるんだと思います。

僕の１つ年上の 15 歳男子チームでは、15 歳の女子が１人、一緒にプレイしています。もちろん男子の公式試合にも出ます。年齢には制限があるのですが、僕たち子供の間は男女の制限はありません。彼女は、所属している 15 歳女子チームが人数が減って無くなってしまったので、大人の女子チームにも所属していて、でも普段の練習は同じ年の男子と一緒にやる事を決めました。そして、ずっと上手くなっています。もちろん足の速さも力も違うけれど、彼女のプレイが足を引っ張る事はなくて、試合でゴールも決めています。

Mollie はいつも正確なプレイでゴールを決めています

僕のポジションはゴールキーパーです。このポジションはみんなやりたくなくて、いつもくじ引きで決めていたんですが、僕がキーパーをする試合は勝つ事が多いので、ずっとやる事にしました。チームのみんなは僕がいると安心すると言ってくれるので、点を取られた時も「今のは大したことがない、次はまかせろ」と言ってみんなを励ますことを心がけています。僕が落ち込んでしまうとみんながもっと焦ってしまうからです。

プレイヤーは途中交代しながらプレイするので、ベンチに戻ってコーチにアドバイスをもらったり、ハーフタイムで指示を受けたりすることができますが、ゴールキーパーは交代がないので自分で自分を励ましています。でも何度もゴールを入れられたらやはり悔しいので、時々試合中にお父さんやお母さんの顔を見てしまいます。そんな時はお母さんは僕より落ち込んだりしていて、逆に笑ってしまって肩の力が抜けることもあります。



上：８歳のころの写真
右：今の僕

日本のおじいちゃんやおばあちゃん、従兄弟達は、僕がフロアーボールをやっている事を知っています。でもフロアーボールをまだ見た事がないので、いつか見せたいと思っていました。そして去年やっと皆に会いに行ける事が決まり、実際にフロアーボールを見せるという願いが叶うことになりました。そこで、コーチに日本の練習に参加したいと相談して、お母さんが札幌のチームを見つけてくれて、その練習に参加させてもらうことになりました。

でもいざ日本に行くとなると問題があって、スーツケースに日本の食料を入れられなくなるからダメだと、ゴールキーパーの道具を持っていくのを反対されてしまいました。その代わりにスティックを東京で買って、練習に参加することにしました。

札幌のみんなと撮った写真

練習のようす。日本語で話ができました

札幌のチームは２つありました。体育館に行ってみたら結構人がいて、マスクをつけて練習してる人がいてびっくりしました。それと、スウェーデンでは、練習の時に長ズボンを履く事は許されていないのですが、ほとんどの人が長ズボンを履いていました。僕が小さかったころ

は、ドリブルや個人プレイをする人が多かったんですが、日本では言われなくてもチーム内でパスをたくさんしてて、スウェーデンとは違うプレースタイルでした。使う道具が違うといったこともなく、みんな楽しそうでした。その中で一緒にミニゲームをやることができて、とても楽しかったです。

スウェーデンでは、秋と春シーズン通してのトーナメントリーグ戦があって、月に３～４回は試合があります。そんな環境なのでテクニックもお互いに身についていくのですが、札幌では２つしかチームがないから試合もたくさんはできないそうで、自分達だけで試合をしてるだけでは、強くなるのは大変だと感じました。たくさんチームができるには、たくさんの人がフロアーボールを知ってくれないとできない、だけどどうやったらたくさんの人がフロアーボールを知ってくれるのか考えました。それは大きい試合で勝つ事じゃないかなと思いました。そうすれば新聞に載りますし、それでみんながフロアーボールについて知ってくれて、中には興味をもってくれる人も出てくるかもしれません。僕はコーチではないのですけど、７年間フロアーボールをやってきているので、札幌のチームのみんなが強くなるヘルプができたらと思っています。今度日本に行く時は、キーパー防具を持っていってもいいとお母さんが約束してくれたので、キーパーの動きも教えたいと思います。スウェーデンのコーチにも話をして、いつかみんながスウェーデンに練習に来たいっていう時に、それができるようにサポートしたいと思っています。

世界選手権の決勝戦

スウェーデン交流センターに来るスウェーデン人に、フロアーボールの事を聞いてみてください。2022 年世界選手権のフロアーボールチャンピオンは、スウェーデンです。日本の人で知ってる人はまだ少ないので、これからどんどん知ってほしいです。僕ができる事はやるので、大人のみなさんも協力してください。よろしくお願いします。そしていつかスウェーデンに、試合に来てください。あと北海道のお菓子はすごく美味しいので、持ってきたらすぐに仲良くなれますよ！

このたびは、スウェーデン交流センターのご厚意で、記事を投稿させていただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

当別町の姉妹都市、レクサンド市にもフロアボールチームがあります。いつか当別町にもチームができて、交流試合ができるようなイベントができたらとも思います。スポーツも文化の一つとして、今後新たな面が生まれますようにと願っています。

北海道でのフロアーボールの活動については、札幌フロアーボールクラブにお問い合わせしていただくと活動内容等を教えていただけます。

（フリドルフ智子）

札幌フロアーボールクラブ（ご担当：平岩さん）
ryosuke.hiraiwa@sapporo-c.ed.jp

発見力
つながりをみつける力

[業務内容]
美術、書道作品集・記念誌・町史・チラシ・ハガキ・
パンフレット・自費出版・インターネット事業・
各種イベント　他

NAKANISHI PRINTING CO.,LTD.
中西印刷株式会社
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL(011)781-7501 FAX(011)781-7516
http://www.nakanishi-printing.co.jp/

～ SCF 図書コーナー～

オーサ・イェークストロムさん　新刊本のご紹介！

北欧女子オーサ、日本で恋をする。

オーサ・イェークストロム 著

出版社：KADOKAWA
発売日：2023 年 4 月 13 日
仕様：A 5 判 144 ページ
ISBN：978-4-04-681197-4

累計28万部！大人気スウェーデン人漫画家が綴る国際恋愛コミックエッセイ

スウェーデンで青春時代は「ギーク（オタク）」と呼ばれ、まったくモテなかったオーサ。恋愛対象は「タキシード仮面」など日本の漫画やアニメのヒーロー。そんなオーサが来日。日本人の彼氏ができる！と思いきや…
日本人はなんで「ＳかＭか」なんて聞くの？「ごはん行こう」はデートの誘い？ラブホテルなんてスウェーデンにはない！！
日本とスウェーデンの恋愛カルチャーギャップに驚きや発見の連続。
現在のスウェーデンの結婚観や性の価値観もわかる、全く新しい恋愛コミックエッセイ。

著者 オーサさんからメッセージ

私は漫画家として 2015 年にデビューして以来、ずっと恋愛をテーマにした本を描きたいと思っていました。今回その夢をこういった形で叶えることができて本当に嬉しく思います。

今回のテーマである恋愛に関しては、スウェーデンと日本とでは全くと言っていいほど違うところが多いと感じているんですが、比べてみると日本よりもスウェーデンの恋愛事情の方が不思議だと思うことが多いんです。もちろん恋愛に関して、好みや価値観というものは人によって違いますが、スウェーデンの恋愛観はすごく極端だなと思っています！そんな日本とスウェーデンの恋愛に対する意識の違いを描いてみました。

スウェーデンにご興味がある皆様、国際恋愛にご興味のある皆様にはぜひ読んでいただきたいと思っております！よろしくお願いいたします！

誰もが気軽に音楽が楽しめるように…そんな想いのもと生まれた
スウェーデンの楽器「ブンネ楽器」、みんなで演奏してみませんか？

スウェーデン交流センター ブンネサークル 参加者募集中！

スウェーデン交流センター　センターホール２階にて
毎月第４土曜日　14:00 より（参加費無料）

音楽は好きなんだけど、「楽器はやったことない…」「音符とか楽譜は読めない…」そんな方大歓迎です！
もちろんスウェーデンが好きな方、楽器が弾ける方も是非お越しください！ 一緒にブンネ楽器を始めましょう！

スウィングバーギター、ミニベース、単音フルート（全音）、チャイムバー（全音）各種あります。楽器を見てみたいという方はスタッフまでお声がけください。

Bunne Music

サークル参加申込や見学申込、ブンネ楽器などお問い合わせは、一般財団法人スウェーデン交流センター
メール info@swedishcenter.or.jp またはお電話 0133-26-2360（担当：高松）にて承ります。

SCFスタッフ紹介

トーベ・ケンネスコグ
Tove Kenneskog

出身：

スウェーデン・ストックホルム

好きなもの：

スープカレー、旅行、おもちゃを集めること（1989～1997年のブルーバード・ポリーポケットがメイン）、読書、スープカレー、テレビゲーム、アニメ…スープカレーって言いましたっけ？

日本で一番好きなところ：

大好物のスープカレーの店が並んでいる札幌に他ならないでしょう～！

日本に興味をもったきっかけ：

アニメですね。2006年にイギリスでオペア（“au pair”（オペア）…海外に滞在する際に、現地の子供の保育や家事をする見返りに滞在先の家族から報酬をもらって生活する留学制度のことです）をしたことがあって、あの時は街とかなり離れたところに住んでいたので、よくパソコンでネットサーフィンをしていました。ある日、とあるストリーミングサイトで子供のころ見ていたアニメをまた日本語で見ることができたのですが、その時見たワンピースとナルトを見て完全にはまったのです。もともと言語学が好きで、日本語の発音がとても綺麗に聞こえたので、勉強しはじめました。

日本でしてみたいこと：

運転してみたいと思います。以前も札幌の学校に留学していた時があるのですが、日本はスウェーデンと違って左側通行で、交差点とかで混乱してそうと思って、運転やめることにしました。でも、今度こそ、帰国する前に必ずチャレンジします！

SCFでしてみたいこと：

スウェーデン語の表現などを通して、スウェーデンの文化やスウェーデン人はどんな考え方をしているかなどをお伝えできればいいなと思っています。それから、少しでもちゃんとした日本語を身につけたいなと思っています。敬語は使えるようになりたいな～。

トーベと“FIKA”しましょう！

トーベと一緒にスウェーデン風のお茶の時間を楽しみましょう！コーヒーや紅茶とスウェーデン風のお菓子を楽しみながらスウェーデンについておしゃべりしませんか？興味のあることがあれば是非そのことについてお話ししましょう！

毎月最終土曜日
14:00-15:30
参加費：500円
場所：SCFセンターホール

SCF REPORT

第38回 SCFイベント報告

夏至祭 Midsommar i Tobetsu

2023年6月18日(日)

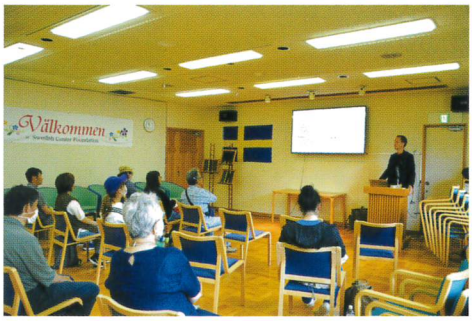
当別町とスウェーデンヒルズの初夏を彩る一大イベント「夏至祭」が、6月18日（日）に開催されました。昨年の第37回と同様、道の駅とうべつの会場とスウェーデンヒルズ会場の二会場での分散開催となりましたが、両会場ともに多くの方にご来場いただきました。

今回の夏至祭では、道の駅とうべつとSCFの隣のスウェーデン公園の2か所でマイストングの立ち上げがおこなわれ、多くの観客が見守るなか、2本のマイストングが無事立てられました。この2本のマイストングは両会場で見ることができますので、お近くにお越しの際はぜひご覧くださいね。

スウェーデン公園で立ち上げられたマイストング。ヒルズの街並みも相まって、「やはり夏至祭はこうでなくちゃ！」という声も聞かれました。

「オー！」「ヘイ！」の掛け声とともに立ち上げられた道の駅とうべつのマイストング。

SCF中庭ではキッチンカーによる食事の提供もあり、10時の開始時間から多くの方が利用されていました。



東京から稚内まで歩いて旅をしているスウェーデン人ジャーナリストのトーマス・ウェデルス氏のプレゼンテーション。多くの方にご参加いただきました。

ガラス工房での制作体験は募集開始から申し込みがあり、予定していた枠は全て埋まる人気ぶりでした。

昨年に続きグリーンコンサートに出演してくださった、スウェーデン人サックス奏者ビョーン・アルコ氏と友人のギタリスト新原草太氏のデュオ「葉音 -HAON-」の演奏は、夏至祭の盛り上がりに一役買いました。

毎回恒例のガラスマーケットには、夏至祭開始前から列を作って待つ人もおり、相変わらずの人気ぶりでした。

15時からスウェーデン公園でおこなわれたスウェーデンの野外ゲーム「クッブ」の体験会。午前中プレゼンテーションをおこなったトーマスさんも参加するなど、多くの方が参加されました。

連載寄稿

ソフィア・ヤンベリのスウェーデン便り

Brevet från Sverige by Sofia Jernberg

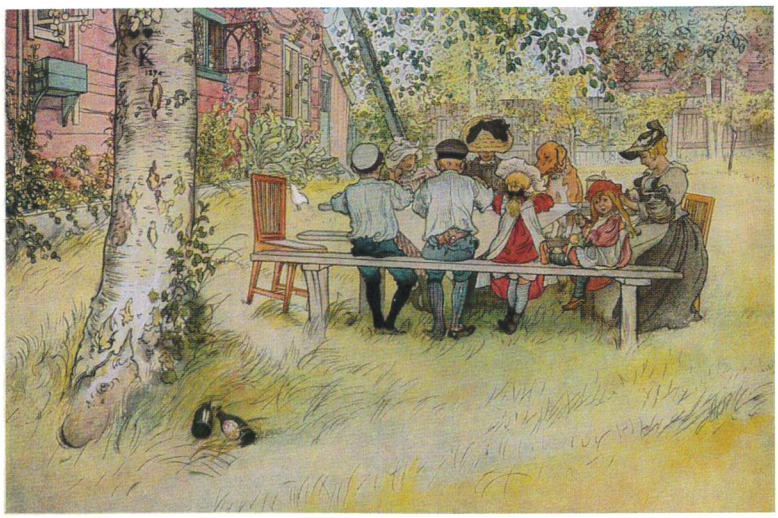
寄稿：ソフィア・ヤンベリ

Fjärde 第4回　6月は一番素晴らしい月

皆さん、こんにちは！ソフィア・ヤンベリです。
今年もまた6月を迎えました。私も含めてスウェーデン人はみんな今スウェーデンの夏を思い切り楽しんでいます。

最近のストックホルムの空模様は晴れの日が続いていることもあってとても綺麗で、気温も 25 度を超える夏日が続いています。湖や海に行くと、平日でも多くの人で賑わっています。私も最近、仕事が終わってから何回か同僚と一緒に泳ぎに行きました。ストックホルムの人々は 25 度以上の夏日を楽しんでいるのは確かですが、この暑さに慣れているとは言えないです…事務所も暑くて、仕事中は誰もあまり元気がないです。

でも！6月の終わりには夏至祭があるので、そろそろストックホルムの住民も田舎に暑い都会から各地の田舎に「逃げて」いきます。文字通り「避暑」ですね。今日同僚に今月の予定を聞いてみたら、8割ぐらいは夏至祭のある週には田舎に行くと言っていました。自分の別荘（サマーハウス、“Sommarstuga（ソンマルステューガ）”って言います）がない人は「友達の夫のおじいちゃんの家」とか、「彼氏のおばさんの別荘」などに行くと言っていました。ちなみに、私は今回初めて都会に残ることになりました…。



カール・ラーション『大きな白樺の下での朝食』（1896 年）

その「夏至祭」。じつは夏至祭は都会でなかなかお祝いできないんです。自然とのつながりが強いものなので、自然あふれる理想的な田舎のイメージも大事です。皆さんはカール・ラーションの絵を見たことがありますか？カール・ラーション Carl Larsson は、1853 生まれのスウェーデン人の画家で、スウェーデンの伝統的な田舎のイメージの作品を数多く残しました。ラーションは、名実ともにスウェーデンの代表的な画家だと言えます。そして彼は、特にスウェーデンの田舎の夏の絵を多く描きました。これらの絵は、スウェーデンの理想的な夏の雰囲気を完璧に表現していると思います。

先ほどから「理想的な田舎」、「理想的な夏」と書かせてもらっていますが、ではその「理想」とはなんでしょう？

それは、綺麗な自然、家族と友達と一緒に時間をたっぷり過ごせること、夏の食べ物（イチゴや、ブルーベリー、野菜、魚など）をたくさん食べられること…日常生活と現実から離れて十分に休養を取ることだと言えるのではないかなと思います。それが夏の理想的な過ごし方だと思いますが、スウェーデンの職場でもらえる有給が多かったとしても、さすがに夏の間中ずっとそんな過ごし方ができるわけではないですよね。しかし、夏至祭ならそんなに長くないので、理想的な夏のひと時を楽しむことができます！

夏至祭が終わって７月にもなれば、多くのスウェーデン人の夏休みが始まります。学生は大体６月から休みが始まりますが、社会人の多くは７月や８月に４週間ぐらい仕事から離れて休みに入ります。私は有給を春と秋に日本旅行に使っちゃう予定なので、この夏はずっと仕事をしていますが…。

６月には夏至祭以外にも Pride Month の期間でもあります！ Pride Month は、LGBTQ コミュニティーの問題を取り上げるなど、LGBTQ コミュニティーの権利向上のためにいつもより精力的に活動に取り組む１か月です。ストックホルムのどこに行っても、レインボープライドの旗が掲げられています。とてもカラフルで、素敵です。パレードは７月や８月にあるので、６月だけというわけでもないです。街中がとてもにぎやかで楽しいです。テレビなどでも、LGBTQ のテーマのドラマや番組も普段より放送されたりされます。そしてもちろん、LGBTQ コミュニティーの権利なども話題になります。今年は特に、トランスジェンダーな方の問題と、LGBTQ の難民の問題も話題になりました。

カール・ラーション『シャスティの誕生日』（1909 年）

そして最後に、６月は高校生の卒業式シーズンでもありますね！スウェーデンで高校の卒業式は、おそらく他の卒業式の時よりずっと重要なのものであると思います。スウェーデンでは18歳になると法的にも成人とみなされ、お酒も飲めるようになります。そして、高校生はだいたい卒業するのは 18 歳か 19 歳です…なので、学生たちは卒業の日、朝の「シャンパン朝ごはん」から始まり、卒業式、クラスメイトとのお祝いと続き、そして午後に家族とのお祝いがあり…夜にまたクラスメイトや友達とのパーティーがあったとしても不思議なことではないです。学校ごとに卒業の日も違うので、お祝いごとで埋め尽くされる時期ですね。

夏至祭、Pride Month、高校の卒業、そして何よりも夏の始まり…６月がスウェーデンでの一番素晴らしい１か月であると言って、それを否定する人はまずいないと思います。

Author ・・・ ソフィア・ヤンベリ Sofia Jernberg

1993年ストックホルム生まれ。ストックホルム大学日本研究学科在学中の2013年に初来日。南山大学に留学後、帰国してストックホルム大学を卒業。2016 ～ 17 年上智大学に留学。2018年～ 19 年スウェーデン交流センター（北海道当別町）に勤務。現在、スウェーデンの特許法律事務所に勤務。『ぼくが小さなプライド・パレード 北欧スウェーデンの LGBT+』の著者。

賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通して多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会など、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

特に「世界一臭いスウェーデンの発酵にしん」スールストロミングの試食会を毎年開催し、多くの皆様からご好評を頂いております。

これらの催しは、当センターの趣旨にご賛同くださる皆様が賛助会員としてその運営基盤をささえてくださっており、毎回の催し等は、広報誌「ビョルク」にも掲載し、賛助会員の皆様には、年4回ご自宅まで郵送、いち早く情報提供しています。ぜひ賛助会員にご入会下さいますよう、お願いいたします。

賛助個人会員　年会費　一口　5,000円
賛助法人会員　年会費　一口　20,000円

あとがき

●今回インタビューをさせていただいたイケア・ジャパン代表取締役社長のペトラ・ファーレ氏は、４月にスウェーデンヒルズにお越しになり、交流センターにも立ち寄って行かれました。将来イケアのポップアップストアが札幌にできるなど、よりイケアが北海道の人たちに身近になることを願わずにはいられませんね。

●６月18日に開催した第38回夏至祭には、昨年以上に多くの方にお越しいただき、スウェーデンヒルズ会場も開始前から多くの方がいらっしゃっていました。スウェーデンの夏の雰囲気を感じてもらいつつ、このスウェーデンヒルズならではのひと時を楽しんでもらえるように、来年の夏至祭も色々な催しを準備していこうと思います。